

さんすうテスト 1ねん

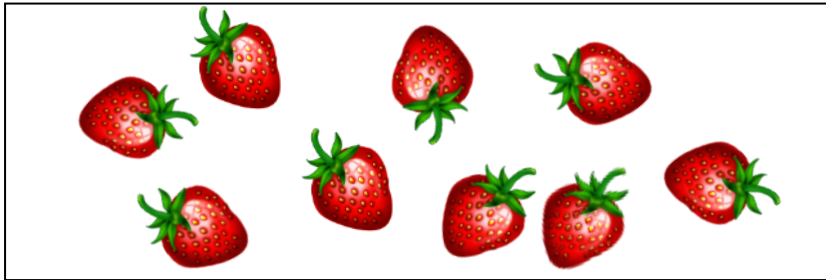
くみ なまえ

知識・技能	思考・判断・表現	合計
/ 73	/ 27	/ 100

※たしかめてみよう

《かずと すうじ》

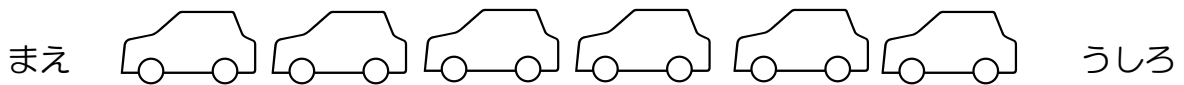
1 かずを かぞえて すうじで かきましょう。【知識・技能】(3点)

こ

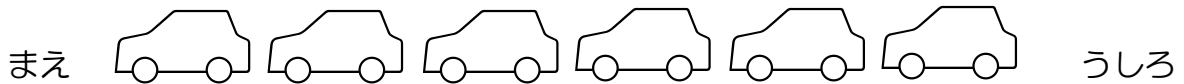
《なんばんめ》

2 いろを ぬりましょう。【知識・技能】(3点×2問)

(1) まえから 4だいめ

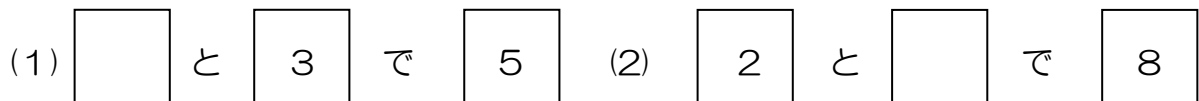


(2) まえから 3だい

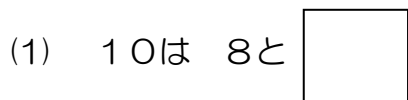


《いくつと いくつ》

3 に かずを かきましょう。【知識・技能】(3点×2問)



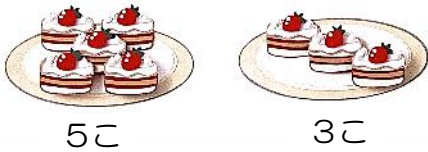
4 の なかに かずを かきましょう。【知識・技能】(3点×2問)



《たしざん(1)》

5 いくつに なるでしょう。【知識・技能】(3点×2問)

(1) ケーキは あわせて いくつでしょう。



こたえ こ

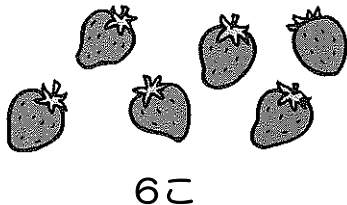
(2) はなを もらうと いくつに なるでしょう。



こたえ ほん

《ひきざん(1)》

6 のこりは いくつに なるでしょう。【知識・技能】(3点)



3こ たべると のこりは こ

《たしざん ひきざん》

7 けいさんを しましよ。【知識・技能】(2点×8問)

(1) $10 + 7 =$

(2) $6 + 5 =$

(3) $11 + 8 =$

(4) $16 - 6 =$

(5) $18 - 3 =$

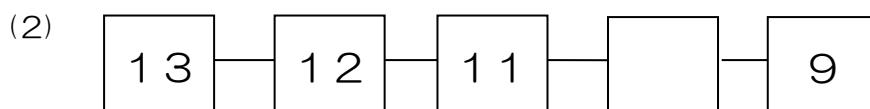
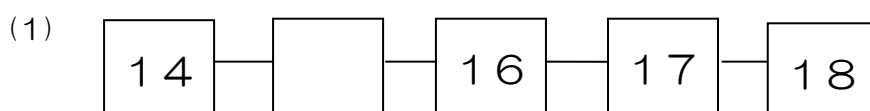
(6) $13 - 7 =$

(7) $8 + 2 + 3 =$

(8) $9 - 4 - 2 =$

《10より おおきい かず》

8 に あうかすを かきましよ。【知識・技能】(3点×2問)



《10より おおきい かず》

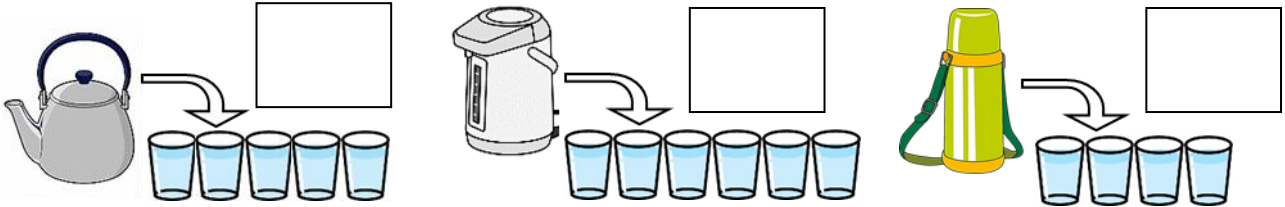
9 に かずを かきましょう。【知識・技能】(3点×2問)

(1) は 10と 8 (2) 12より 4 おおきい かずは

《おおきさくらべ》

10 おおく はいる じゅんに 1・2・3と にばんごうを つけましょう。

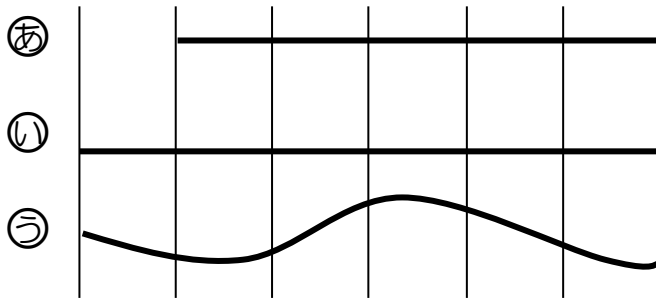
【知識・技能】(完答3点)



《おおきさ くらべ》

11 つぎの ㉞, ㉟, ㊱の なかで いちばん ながいのは どれでしょう。

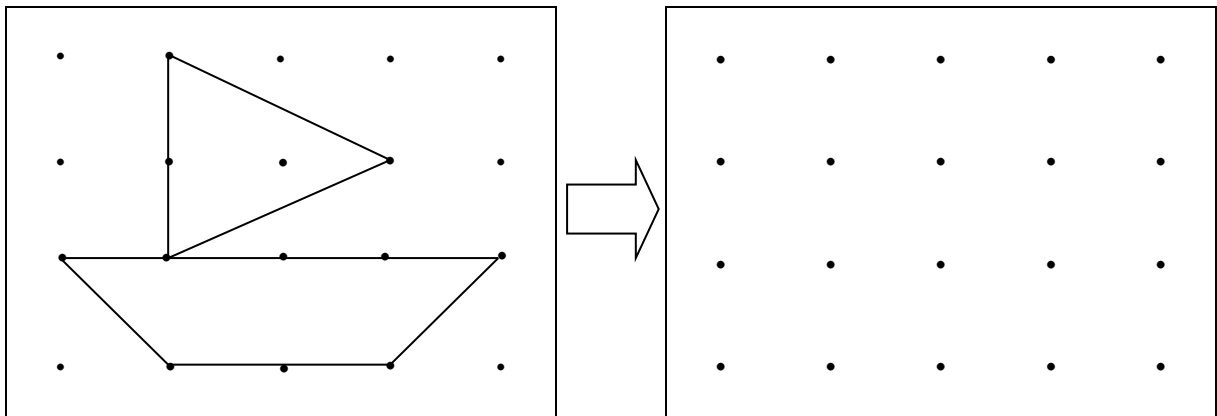
【知識・技能】(3点)



《かたちづくり》

12 てんを つないで ひだりの かたちを つくりましょう。

【知識・技能】(完答3点)



《なんじ なんじはん》

13 とけいを よみましょう。 の なかに こたえを かきましょう。

【知識・技能】(3点×2問)

(1) なんじ ですか。

(2) なんじはん ですか。

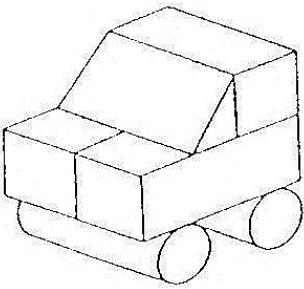


※やってみよう

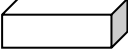


なまえ

《いろいろな かたち》

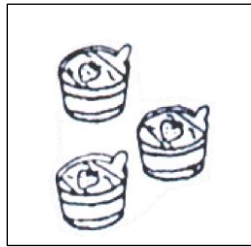
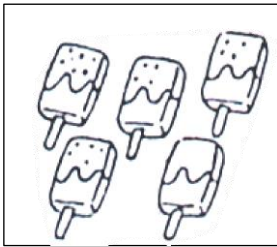
14 なんこ つかって いるでしょう。□ の なかに かずを かきましょう。



【思考・判断・表現】(3点×3問)

- (1)  の なかま こ
- (2)  の なかま こ
- (3)  の なかま こ

15 ちがいは なんこでしょう。【思考・判断・表現】(式：3点, 答え：3点)



しき

こたえ こ

《3つの かずの けいさん》

16 こうえんで こどもが 6にん あそんで いました。4にん きました。3にん かえりました。なんにんに なりましたか。

【思考・判断・表現】(式：3点, 答え：3点)

しき にん



《たしざん》

17 □ のなかの かずになるように たて・よこ・ななめに ならんだ 2つのかずを ぜんぶみつけて ○ で かこみましょう。【思考・判断・表現】(完答6点)

10

あと 3こ あるよ

3	1	2	1
9	3	3	8
2	4	5	3
3	7	5	6

さんすうテスト 1ねん

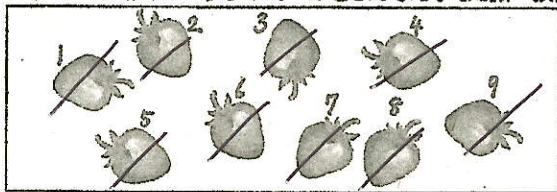
くみ なまえ

知識・技能	思考・判断・表現	合計
78	27	100

※たしかめてみよう

《かずと すうじ》

① かずを かぞえて すうじで かきましょう。【知識・技能】(3点) 【98.0%】



かずもろがねるいようたしをしをつけて、じゆんに かぞえよう

9 こ

《なんばんめ》

② いろを めりましょう。【知識・技能】(3点×2問)

(1) まえから 4だいめ 【82.4%】

○たいていは、1だいたいいろをわける



(2) まえから 3だい 【88.3%】



《いくつと いくつ》

③ □ に かずを かきましょう。【知識・技能】(3点×2問)

【98.0%】

(1) 2 と 3 で 5 (2) 2 と 6 で 8

【93.2%】

④ □ の なかに かずを かきましょう。【知識・技能】(3点×2問)

(1) 10は 8と 2 【78.8%】

○○○○○ ○○○○ ○○

(2) 7 は 3と 4 【76.5%】

○○○ ○○○○
7

《10より おおきい かず》

⑨ □ に かずを かきましょう。【知識・技能】(3点×2問)

(1) 18 (2) 10と 8 (3) 12より 4 おおきい かずは 16

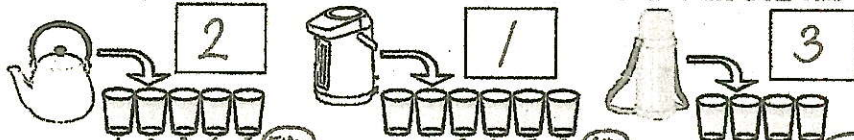
10+8 【83.1%】

12+4

《おおきさくらべ》

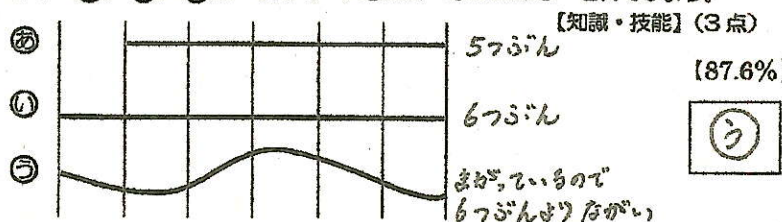
⑩ おおく はいる じゆんに 1・2・3と □ にばんごうを つけましょう。【知識・技能】(完答3点)

【89.3%】 なんばい かずうじをかくとわかりやすいよ。



《おおきさくらべ》

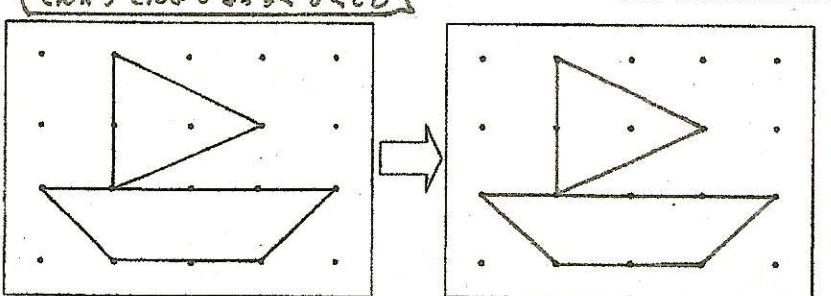
⑪ つぎの ㉔, ㉕, ㉖ の なかで いちばん ながいのは どれでしょう。【知識・技能】(3点)



《かたちづくり》

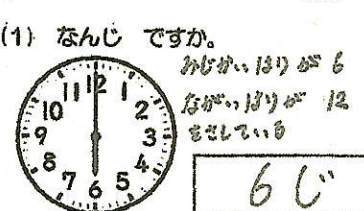
⑫ てんをつないで ひだりの かたちをつくりましょう。【91.2%】

【知識・技能】(完答3点)



《なんじ なんじはん》

⑬ とけいを よみましょう。□ の なかに こたえを かきましょう。【知識・技能】(3点×2問)



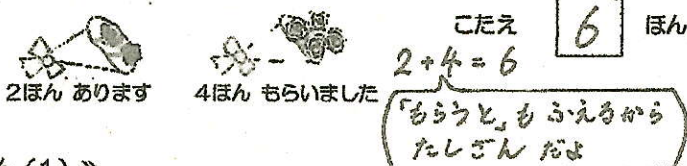
《たしざん(1)》

⑤ いくつに なるでしょう。【知識・技能】(3点×2問)

(1) ケーキは あわせて いくつでしょう。【99.0%】

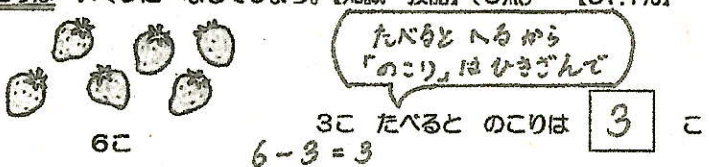


(2) はなを もらうと いくつに なるでしょう。【94.5%】



《ひきざん(1)》

⑥ のこりは いくつに なるでしょう。【知識・技能】(3点) 【97.1%】



《たしざん ひきざん》

⑦ けいざんを しましょう。【知識・技能】(2点×8問)

- (1) 10 + 7 = 17 【97.7%】 (2) 6 + 5 = 11 【98.4%】
- (3) 11 + 8 = 19 【88.9%】 (4) 16 - 6 = 10 【95.1%】
- (5) 18 - 3 = 15 【89.3%】 (6) 13 - 7 = 6 【90.9%】
- (7) 8 + 2 + 3 = 13 (8) 9 - 4 - 2 = 3

《10より おおきい かず》

⑧ □ に あうかずを かきましょう。【知識・技能】(3点×2問)

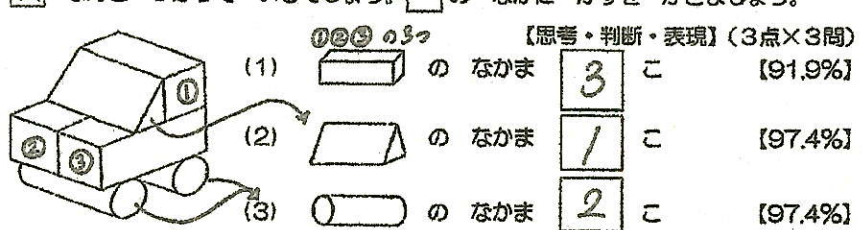
- (1) 14, 15, 16, 17, 18 【98.4%】
- (2) 13, 12, 11, 10, 9 【97.1%】

※やってみよう

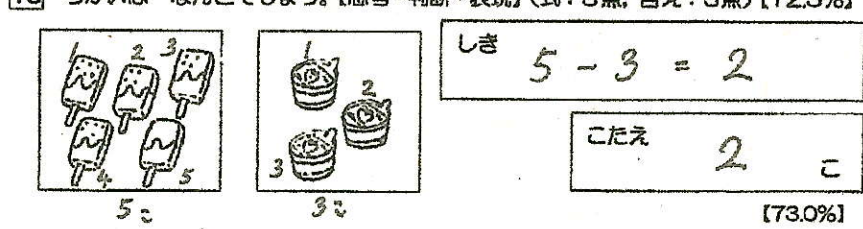
なまえ

《いろいろな かたち》

⑭ なんこ つかって いるでしょう。□ の なかに かずを かきましょう。【思考・判断・表現】(3点×3問)

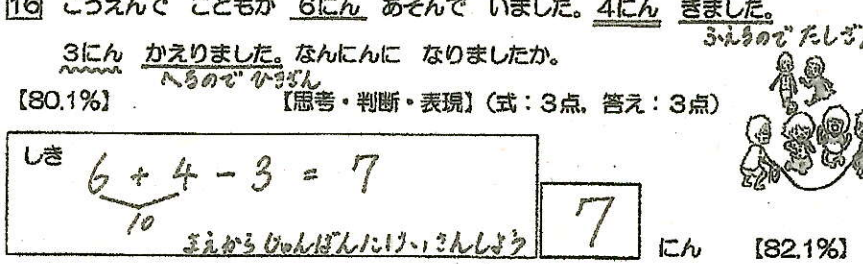


⑮ ちがいは なんこでしょう。【思考・判断・表現】(式: 3点, 答え: 3点) 【72.3%】



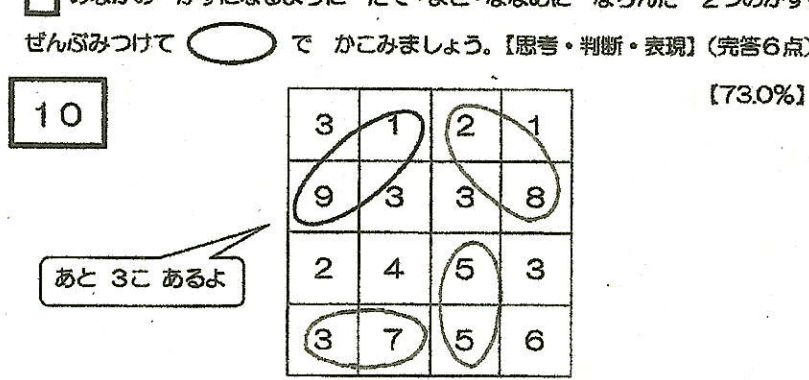
《3つの かずの けいざん》

⑯ こうえんで こどもが 6にん あそんで いました。4にん きました。3にん かえりました。なんにんに なりましたか。【80.1%】



《たしざん》

⑰ □ のなかの かずになるように たて・よこ・ななめに ならんだ 2つのかずを ぜんぶみつけて ○ で かこみましょう。【思考・判断・表現】(完答6点)



基礎学力調査(1年)集計表

調査人数 249 人

	番号	問題	正答	R5年度 正答率	↑ ↓	R4年度 正答率	R3年度 正答率	主な誤答例	無答率
た し か め て み よ う	1	いちごの数は	9こ	98.8		98	97.6	10	0.0
	2	(1) 前から4台目	略	86.3		82.4	91.1	前から4台をぬる	0.0
		(2) 前から3台	略	89.6		88.3	89.6	3台目をぬる	0.0
	3	(1) □と3で5	2	95.6		98	97	1・7	1.6
		(2) 2と□で8	6	92.0		93.2	94.1	5・1	1.6
	4	(1) 10は8と□	2	78.7		78.8	83.7	18	2.0
		(2) □は3と4	7	72.3	↓	76.5	76.9	1	2.4
	5	(1) ケーキ	8こ	98.0		99	98.8	7	0.0
		(2) 花束	6ぼん	92.0		94.5	93.8	2	0.0
	6	いちごの残りの数	3こ	94.8		97.1	94.7	6	0.4
	7	(1) $10+7=$	17	93.6	↓	97.7	96.1	3・14	1.2
		(2) $6+5=$	11	94.4	↓	98.4	97	8	2.4
		(3) $11+8=$	19	87.1		88.9	91.4	3・18	1.2
		(4) $16-6=$	10	91.6		95.1	96.4	4・8・22	2.4
		(5) $18-3=$	15	84.3	↓	89.3	92.6	5・21・10	2.8
		(6) $13-7=$	6	85.1	↓	90.9	80.7	20	3.6
		(7) $8+2+3=$	13	92.0	↓	96.4	96.7	7	2.0
		(8) $9-4-2=$	3	89.2		91.2	91.4	4・7	3.2
	8	(1) □に数を書きましょう	15	98.8		98.4	98.5	5	0.0
		(2) □に数を書きましょう	10	98.0		97.1	98.8	8・17	0.0
9	(1) □は10と8	18	78.3	↓	83.1	84.6	2・6・12	6.8	
	(2) 12より4大きい数	16	70.3	↑			6・8・10・14	6.8	
10	多く入る順に	2,1,3	90.4		89.3	91.1	2・3・1 5・6・4	0.8	
11	いちばん長いのはどれ	う	87.6		87.6	90.2	い・あ	0.0	
12	点をつなぎ左の形を作る	解答解説を参照	88.0		91.2	95	線が点から出ていない	0.4	
13	(1) 何時ですか	6じ	87.1	↑			12じはん・12じ・6じはん	0.4	
	(2) 何時半ですか	5じはん	87.6	↑			6じはん・6じ・5はん	0.4	
14	(1) 四角の仲間	3こ	97.2	↑	91.9	93.5	2	0.4	
	(2) 三角の仲間	1こ	99.6		97.4	98.2	/	0.4	
	(3) 丸の仲間	2こ	99.6		97.4	96.4	/	0.4	
15	式	ちがいは何個	$5-3(=2)$	65.9	↓	72.3	75.7	$5+3・5-2・6+4$	2.8
	答		2こ	64.7	↓	73	76	8こ・3こ	2.8
16	式	何人になりましたか	$6+4-3(=7)$	81.1		80.1	84.9	6+4	1.6
	答		7にん	81.9		82.1	81.9	10・3	2.0
17		10になるように○でかこむ	略	79.1	↑	73	79.5	○の数が不足・適当	1.6

※矢印は、昨年度比4ポイント以上の増減に対して ↑ ↓ で表示

考察と分析・授業提案（小1年）

○ 考察と分析

昨年度と比べ、正答率が下がった問題は33問中19問であった。新設した問題が3問あるため、総合的にみて計算力は落ちてきていると考える。特に知識・技能を扱う問題では、新設問題を除く24問中17問で正答率が下がった。誤答例を見ると、問題の意味が理解できておらず、数字を見て思い込みで答えているものが多い。このことから、問題文にかかれている言葉や式の符号の意味をよく考えずに解答していることが考えられる。問題文を読んで場面を想像したり、符号の混合した問題に取り組んだりしていく必要がある。

7 けいさんを しましょう。【知識・技能】（2点×8問）

(7) $8+2+3=$	解答	13		
正答率 92.0% (昨年度 96.4%)		無答率 2.0%	誤答例	7

(8) $9-4-2=$	解答	3		
正答率 89.2% (昨年度 91.2%)		無答率 3.2%	誤答例	4, 7

設問7は、「たし算・ひき算」に関する問題である。昨年度に比べて、(7)の問題では正答率が約5%下がり、(8)の繰り下がり問題では、2.0%下がった。また、無答率が2.0%、3.2%と他の問題に比べて高い。原因の一つとして、たし算とひき算それぞれの計算が理解できても、混合問題になると符号に気を付けて計算できていないことが考えられる。このことから、計算をする際に符号をしっかり確認することが定着しておらず、思い込みで計算を進めていく児童が多いといえる。また、設問7の正答率が下がった問題は8問中8問であり、基礎的な計算力も低下していることが考えられる。

○ 授業提案 3つの かずの けいさん (教科書 P119)

符号の確認の定着や計算力を高めるためには、符号の違う問題が混合したものを反復的に取り組んでいく必要があると考え、本授業を提案する。今回はP119「3つの かずの けいさん」で取り上げる。ここでは、児童はたし算とひき算の符号が混合した問題に初めて取り組む。導入で、今までの問題との違いから、問題を解く際には符号をよく見て解く必要があることに気付かせていきたい。また、この学習を終えた後のたしざん(2)やひきざん(2)でも、児童は符号が混合した練習問題に取り組むことで符号を意識して計算をすることが身についていくだろう。

数図ブロックの動かし方から、符号の違いに視覚的に気付くようにする。

符号が違いに気を付けて計算する必要があることをしっかりと明記し、印象付ける。